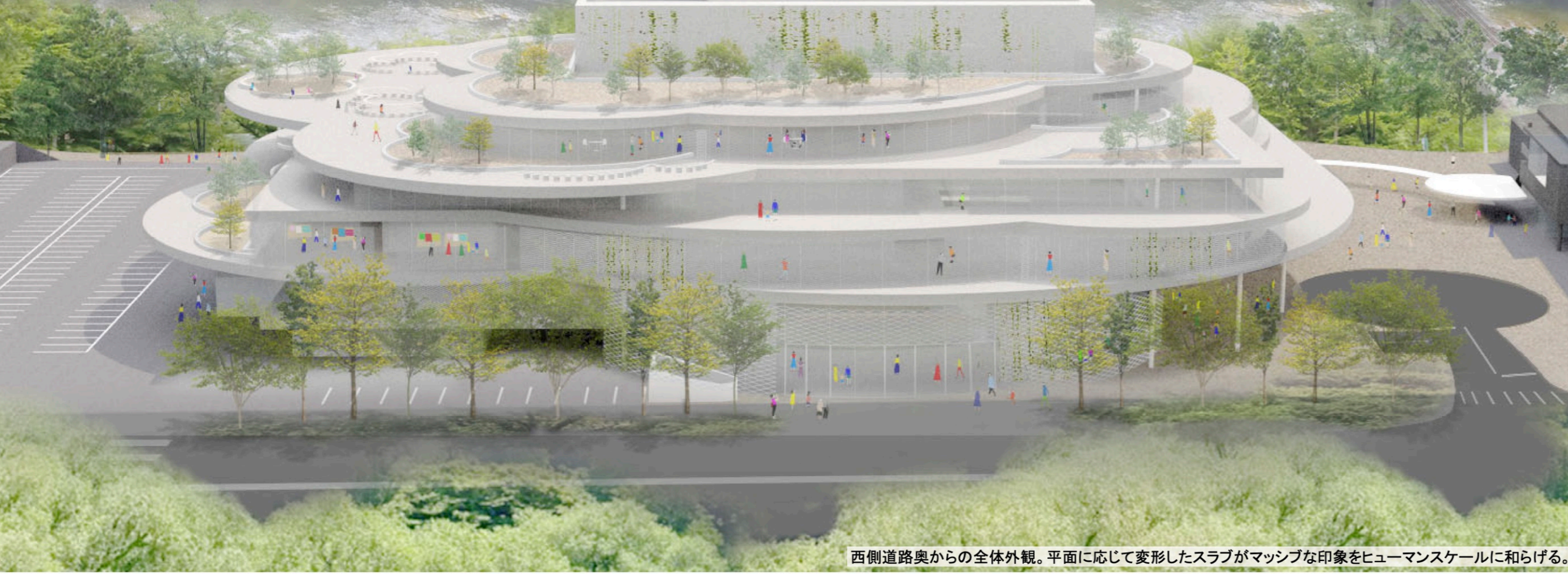


過去と未来をつなぐ市民のための交流の広場

-(仮称)国際センター駅北地区複合施設-



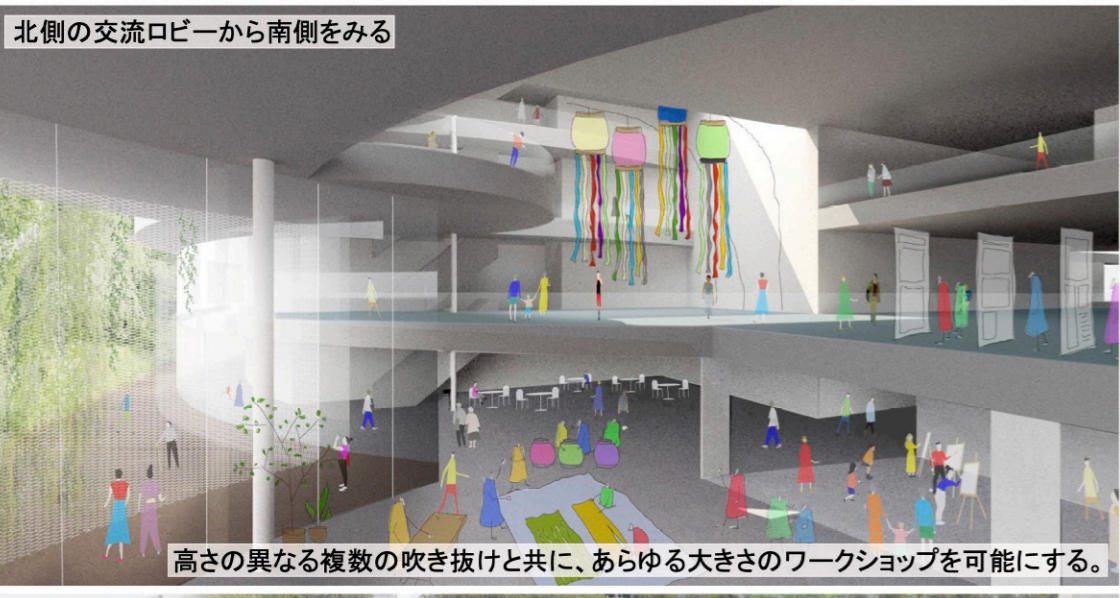
西側道路奥からの全体外観。平面に応じて変形したスラブがマッシブな印象をヒューマンスケールに和らげる。



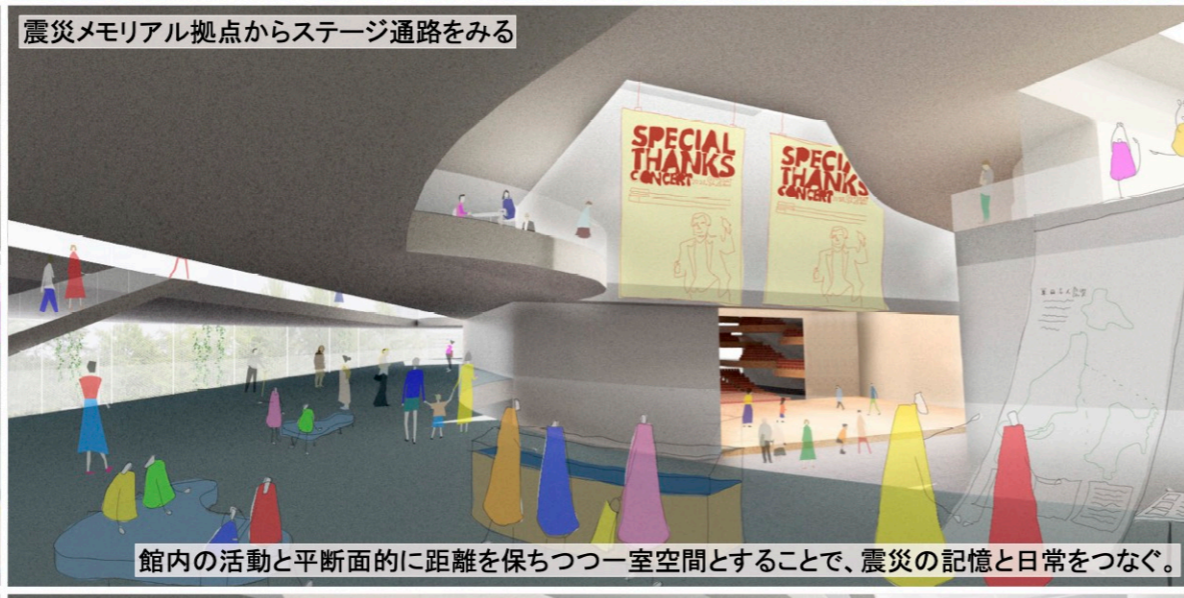
大ホールと小ホールが同時に使われるとき
豊かな周辺自然環境まで連続するホールは多様な使い方を許容する。



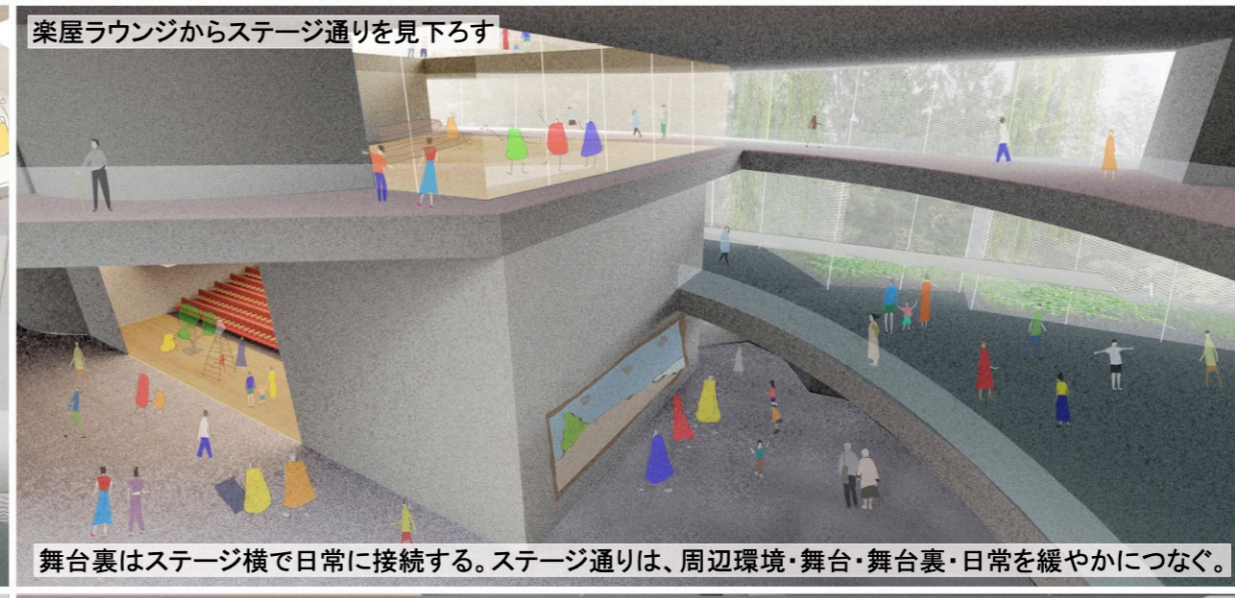
南側交流イベントロビーから交流広場をみる
前面の交流広場とともに広がりを持って、来館者を迎える。



北側の交流ロビーから南側をみる
高さの異なる複数の吹き抜けと共に、あらゆる大きさのワークショップを可能にする。



震災メモリアル拠点からステージ通路をみる
館内の活動と平面的に距離を保ちつつ一室空間とすることで、震災の記憶と日常をつなぐ。



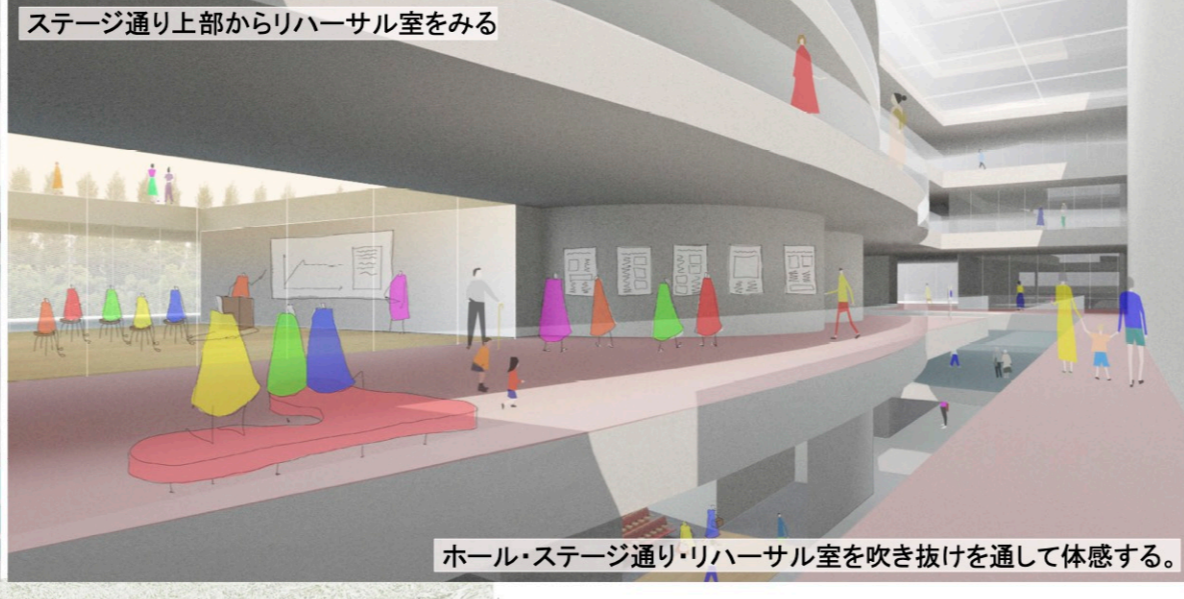
楽屋ラウンジからステージ通りを見下ろす
舞台裏はステージ横で日常に接続する。ステージ通りは、周辺環境・舞台・舞臺・日常を緩やかにつなぐ。



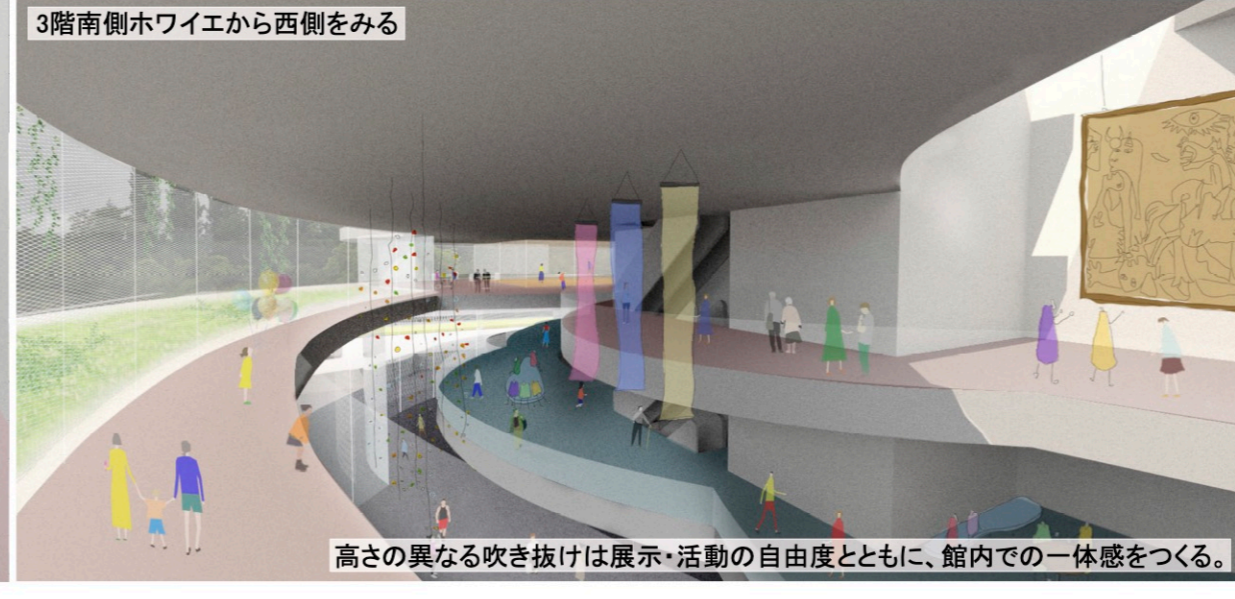
4階レストランから南側にステージ通りをみる
ステージ通りと光庭を介したコミュニケーションにより、さまざまな活動を感じる開かれた外部のような空間。



クワイエットスペースと上下階の重なり
樹木や川の流れを感じる屋外テラスで穏やかに取り戻す。平穏・日常へとゆったりと戻っていく。



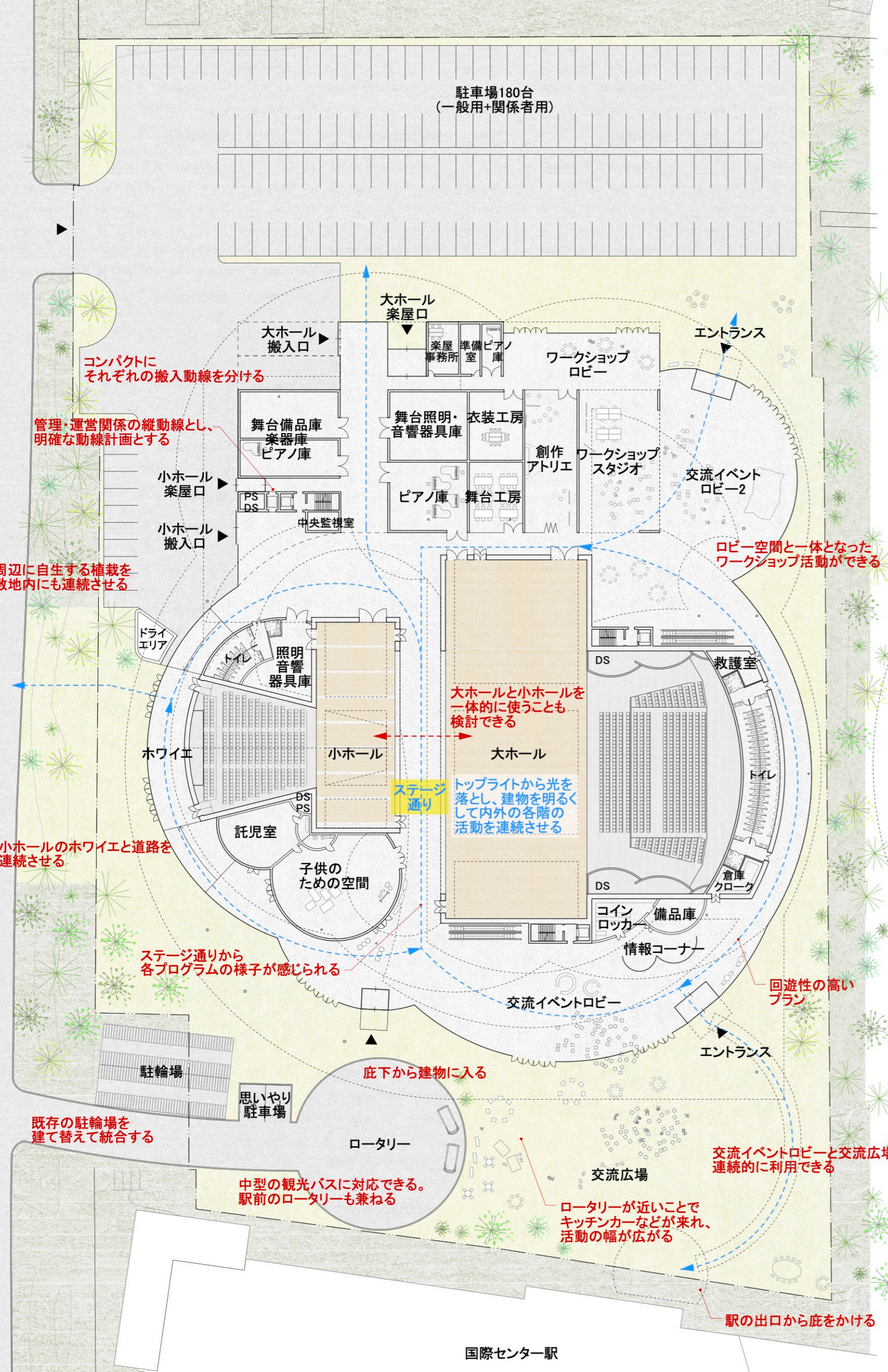
ステージ通り上部からリハーサル室をみる
ホール・ステージ通り・リハーサル室を吹き抜けを通して体感する。



3階南側ホワイエから西側をみる
高さの異なる吹き抜けは展示・活動の自由度とともに、館内での一体感をつくる。



ステージ通りと光庭を介したコミュニケーションにより、さまざまな活動を感じる開かれた外部のような空間。



1 周辺環境と連続する開かれた公園のような建物
豊かな周囲とつながり、人々の活動や、何気ない日常の体験、過去と未来をつなげるような空間を作り出します。「杜の都」の名の由来になった青葉山エリアに、緑あふれる公園のような環境を作り出します。

2 多様な公演を可能にするホール
2つのホールを同レベル・向かい合わせに配置し、それぞれの独立性を確保しつつ、周囲の空間を巻き込んだ多様な使われ方を目指します。

3 時間を超える環境装置
自然エネルギーを活用しつつ、周辺環境も向上するような、長く愛され、活かされる建物を目指します。

